

# 取手市小中学校 PTA 連絡協議会

# 取手市P連通信 No.15

## 8月25日・26日 日本PTA全国研究大会 広島大会

取手市P連の代表者3名にてPTA全国大会に参加して参りました。

日本PTA全国研究大会とは、約7,000人が全国から参加する研修会の様なもので、広島大会では8つの分科会（1日目）と全体会（2日目）が行われ、様々な学びを得る事ができます。

私たちは茨城P連として特別第2分科会に参加しました。分科会では「教育の情報化の推進」という研究テーマのもと、静岡大学教育学部准教授 塩田真吾先生による基調講演がおこなわれました。これからの子ども達に必要な能力は、「情報活用力」であり、新学習指導要領にも言語能力と同様な位置付けとなっています。そこには、情報を上手に活用する力と同時に、情報のリスクに対応する力も求められ、リスクの見積もり力（危険予測）を高める為には、1か0の発想ではなく、リスクのグラデーション発想が必要であり、「どのような特徴があったら危険だと判断すればよいか」という危険を予測する力を育むと良いそうです。

また、情報（インターネット）リスクとして、時間管理についても考える必要があり、タイムマネジメント力を育てる事も必要です。インターネットを使いすぎてしまう要因を考えると、「他に夢中になる事がない」「不安やストレスを忘れたい」などがあげられ、好きな事、夢中になる事をどんどん広げていき、やる事だけではなく、やりたい事を考え、複数の選択肢を持っている事がよいとの事です。

自分の意思でやめられない場合は「依存」。この様にならない為にもタイムマネジメント力を育てていきましょう。

私個人的な意見ですが、塩田先生のお話は、大変参考となる事が多く、是非とも会員の皆様にも「静岡大学教育学部 塩田真吾 研究室」ホームページをご覧いただきたいと思います。<http://shiotashingo.main.jp/>

また、基調講演後、実践発表として鳥取県P連会長 高尾祐子さんより「とっとり子どもサミット」の取組の紹介がありました。

とっとり子どもサミットの枠組みは、小中学生と保護者が電子メディアとの適切な付き合い方を学び、使用ルールの作成などを行うものです。その中で、SNSの利用に伴う危険性について、小さな子どもにもわかりやすく伝えられる標語を募集したところ、「とりのからあげ」が大賞に選ばれました。（発表者の高尾さんは、「とりのからあげ」といえば“ハイボール”を想像するそうです）

- 【と】もだちがきずつく事をしない
- 【り】よう時間をきめよう
- 【の】せない個人情報
- 【か】きんしない
- 【ら】いんは相手の事を考えて送信
- 【あ】わない SNS で知り合った人
- 【げ】ームソフトの年れい制限を守る



名前（なまえ）	からぼと ※鳥取大学附属小学校5年の木山心花（きやまみはな）さんが考案
性別（せいべつ）	不明（ふめい）
誕生日（たんじょうび）	令和3年1月1日
性格（せいかく）	やさしい 少し心配性（しんぱいしょう）
特徴（とくちょう）	とりのからあげの妖精（ようせい）。 子どもに危険（きけん）がせまると頭（あたま）の赤色灯（せきしょくとう）がピカピカひかる
ミッション	SNSトラブルから子どもを守（まも）るあいごと「とりのからあげ」と青少年健全育成条例（せいしょうねんけんぜんいくせいじょうれい）について、子どもたちにわかりやすく伝（つた）えること

成果として、サミット参加者各家庭におけるメディア利用に対する取組を深められた事や、6年間毎年参加した子どもが自己の成長と共に変化する生活実態に合わせ、インターネット利用のルールを見直す事の大切さを学ぶ事に繋がったそうです。取手市P連でもこの標語「とりのからあげ」を広めていきましょう。

全体会については、次回市P連通信でご報告させていただきます。